



前立腺がん ロボット支援手術浸透

主な医療機関の前立腺がんの治療実績(2025年)

①手術(件) ②放射線治療(人)
③IMRT(人) ④超算分割照射(人)

北海道	①	②	③	④	東京医大	91	28	10	0	滋賀				
帯広厚生	107	92	80	0	順天堂大練馬	87	96	0	0	大津赤十字	32	51	51	0
手稲溪仁会	80	2	1	0	板橋中央総合	86	46	46	0	市立長浜	0	56	56	0
国・北海道がんセ	36	67	67	0	同愛記念	82	32	22	3	京都府				
青森					国立がん研究センター	73	50	37	31	府立医大	42	905	195	12
弘前大	83	102	94	1	東京警察	69	52	52	0	京都桂	35	53	45	0
岩手					東京科学大	65	83	63	0	京都大	21	75	75	0
岩手医大	71	125	86	28	都立駒込	60	91	85	0	大阪府				
宮城					都立多摩北部医療セ	54	114	65	0	大阪医科薬科大	108	96	91	0
東北大	45	267	267	241	武蔵野赤十字	51	98	98	0	関西医大	103	118	117	1
石巻赤十字	44	65	51	0	帝京大	46	50	50	0	大阪国際がんセ	103	116	116	0
秋田					日大板橋	36	71	41	0	大阪公立大	101	101	95	35
秋田大	45	94	25	1	東海大八王子	26	62	62	3	大阪労災	99	34	34	0
山形					公立昭和	22	91	91	0	大阪大	82	62	36	26
県立中央	95	2	2	0	神奈川					市立豊中	73	322	0	0
山形大	35	472	0	0	県立がんセ	227	428	10	0	大阪赤十字	47	52	52	0
福島					横濱市大病院	124	134	36	0	大阪市立総合医療セ	43	64	27	0
竹田総合	72	53	50	—	済生会横濱市東部	109	81	55	28	吹田徳洲会	20	62	62	0
太田西ノ内	39	53	53	0	横濱労災	105	66	66	0	兵庫				
総合南東北	21	149	14	0	横須賀共済	101	102	102	12	姫路赤十字	134	24	—	—
茨城					新百合ヶ丘総合	96	46	46	0	神戸大	115	—	—	—
土浦協同	63	86	86	0	横濱市立市民	75	88	88	7	神戸市立医療センター中央市民	104	24	24	0
水戸赤十字	52	64	64	0	北里大	69	180	86	44	県立がんセ	87	0	0	0
水戸中央	39	63	63	0	藤沢市民	55	67	67	0	奈良				
東京医大茨城医療セ	0	98	48	0	昭和医大横濱市北部	41	52	41	0	天理よろづ相談所	125	18	18	0
栃木					大和市立	40	51	50	1	高井	0	117	10	0
独協医大	145	3	0	0	横浜栄共済	36	53	53	0	和歌山				
自治医大	118	95	95	0	湘南藤沢徳洲会	31	115	115	102	日赤和歌山医療セ	81	65	65	3
県立がんセ	99	15	15	0	湘南鎌倉総合	24	59	3	0	県立医大	73	68	31	0
那須赤十字	89	32	0	0	大船中央	0	585	455	413	鳥取				
済生会宇都宮	80	85	85	0	新潟					鳥取大	70	96	96	0
群馬					長岡中央総合	0	62	62	0	島根				
伊勢崎市民	134	27	0	0	富山					島根大	72	68	68	0
県立がんセ	32	72	0	0	県立中央	63	62	61	0	岡山				
埼玉					石川					川崎医大総合医療セ	84	40	40	0
上尾中央総合	173	112	62	0	金沢医大	28	242	59	—	倉敷中央	69	87	87	0
自治医大さいたま医療セ	136	49	49	0	福井					倉敷成人病セ	56	77	61	0
独協医大埼玉医療セ	114	69	69	0	福井県立	39	96	3	0	津山中央	51	59	1	0
済生会川口総合	110	63	63	0	県済生会	0	52	52	48	広島				
行田総合	110	0	0	0	山梨					広島市立安佐市民	117	42	41	0
埼玉医大国際医療セ	106	167	165	40	県立中央	60	113	113	65	国・福山医療セ	106	9	9	0
県立がんセ	101	114	104	0	長野					J A 広島総合	90	21	21	0
草加市立	70	55	54	0	長野市民	141	162	69	0	山口				
さいたま赤十字	65	121	12	0	長野赤十字	130	39	39	0	山口大	87	14	14	0
国・埼玉	54	72	32	1	諏訪赤十字	43	54	54	0	JCHO徳山中央	43	51	51	0
さいたま市立	53	71	71	41	岐阜					徳島				
千葉					県立多治見	94	93	59	0	県立中央	90	27	27	0
国立がん研究センター	274	337	126	0	県総合医療セ	91	66	64	0	徳島大	72	60	42	0
県がんセ	184	47	47	0	中部国際医療セ	76	154	43	0	香川				
東邦大佐倉	138	59	59	0	岐阜大	73	61	48	0	高松赤十字	129	30	30	0
亀田総合	126	21	21	0	大垣市民	55	50	50	0	香川大	71	81	63	0
千葉大	86	139	139	94	静岡					愛媛				
船橋市立医療セ	86	38	38	0	県立静岡がんセ	95	168	72	0	国・四国がんセ	95	41	30	0
君津中央	82	34	0	0	県立総合	68	134	123	4	高知				
順天堂大浦安	59	60	60	0	聖隷浜松	67	135	135	74	高知高須	48	0	0	0
国保旭中央	55	145	100	0	順天堂大静岡	57	64	0	0	福岡				
東京都					市立静岡	41	73	73	0	JCHO九州	122	27	27	0
東京医大	199	121	121	121	浜松医療セ	41	63	52	0	古賀21	109	72	72	0
東京国際大堀	187	0	0	0	磐田市立総合	38	76	58	0	産業医大	81	79	79	0
がん研有明	169	125	103	55	愛知					久留米大	40	118	2	0
虎の門	155	68	68	23	安城更生	94	59	51	8	戸畑共立	0	131	83	61
慈恵医大	150	165	60	0	愛知医大	90	51	51	19	佐賀				
長久保	141	0	0	0	日赤名古屋第二	86	45	45	0	佐賀大	40	3	3	0
順天堂大	134	129	102	8	一宮西	82	12	7	0	長崎				
慶応大	126	138	106	56	春日井市民	77	54	54	0	長崎大	68	23	23	0
聖路加国際	121	31	31	0	刈谷豊田総合	59	67	67	0	熊本				
江戸川	112	79	79	2	名古屋市大西部医療セ	48	519	10	0	済生会熊本	233	18	18	0
N T T 東日本関東	112	12	12	0	名古屋大	46	56	48	7	大分				
三井記念	97	34	0	0	トヨタ記念	39	87	87	54	別府済生泌尿器	122	0	0	0
杏林大	94	45	45	0	三重					大分赤十字	30	59	59	0
					市立四日市	30	26	0	0	鹿児島				
										にいむら	106	51	51	0

放射線治療 IMRTが2—3

前立腺がんは男性がかかるがんでも多く、年間の新規患者数は約10万人と推計されています。手術では負担が小さいロボット支援手術が多数を占め、放射線治療でも精度の高い照射法が広がっています。10年生存率は、がん以外で亡くなる場合を除くと84%で、他のがんより高い部類に入ります。

病院の実力

289

前立腺はクルミほどの大きさで、膀胱や直腸に近く、精液の一部を作る機能がある。中を尿道が通っており、がんの治療後は排尿障害や勃起障害、直腸障害のリスクがある。がんの早期は自覚症状がないことが多く、採血して調べるPSA検査を定期的に受けることが大切だ。読売新聞は4—6月、がん診療連携拠点病院や日本泌尿器科学会

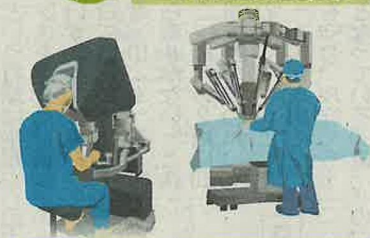
のうちの全摘出が一般的だ。おなかに数か所の穴を開けて行う腹腔鏡手術が基本となり、うち入院が1週間から10日ほどとなるロボット支援手術が浸透している。回答した全施設の手術総数約2万7000件に対し、ロボット手術は約2万件で95%を超えた。

※前立腺がんの主な治療

※割合は今回の調査結果に基づく

手術

出血が少なく、操作性が高いロボット支援手術の割合が全手術の95%を超えた



放射線治療

がんの形に合わせて体外から照射するIMRT(強度変調放射線治療)が全放射線治療の約3分の2を占めた



放射線治療は約1万8800人だった。体外からがんの形に合わせて照射できるIMRTが約1万2400人となり、全体の約3分の2を占めた。京都大の小林恭教授(泌尿器科学)は「施設や病期(ステージ)にもよるが、手術と放射線の治療成績は、おおむね同じとされる。副作用の影響を含めて説明を受けた上で、どの治療にするか判断してほしい」と話す。IMRTを中心とする外照射の治療回数は、従来は20—39回で4—8週間の通院が必要だったが、5回で1週間の通院で済む超算分割

照射を導入する施設が増えていた。がん研有明病院放射線治療部の吉岡靖生部長は「従来の照射と比べ、がんへの効果と副作用が同等というデータがそろいつつある」と話す。前立腺がんは、男性ホルモン「アンドロゲン」の作用で進行する。ホルモンの分泌や働きを阻害し、がんの進行を一時的に抑えるホルモン療法を根治的な療法に併用する場合がある。ゆつくりと進行するがんの割合が高く、定期的な経過観察を続ける監視療法が有効な場合もある。(江村泰山)

わたしの医見

り効果的だという。水分補給とは異なる予防のメカニズムである。

夏休みは給食がないので、牛乳を飲む機会が減っている子どももいるだろうと思う。また、乳を出す牛たちの牛舎が、酷暑で35度にもなるのに扇風機が少なく、夏は搾乳量が激減するという報道を目にして、複雑な気持ちになった。

※熱中症の予防に役立つ牛乳

岡山県新見市 教員 難波宏子 58

農協で手にした冊子で、牛乳が熱中症の予防に役立つことを知った。牛乳に含まれるたんぱく質が血液の量を増やし、汗をかきやすく体温調節しやすい体を作るそう。運動後1時間以内に飲むとよ

※医療に関する体験、意見、疑問をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記、〒100-8055読売新聞東京本社医療部「わたしの医見」係(ファクス03・3217・1960、メールiryu@yomiuri.com)へ。読売新聞のサイトにも掲載します。紙面掲載分には図書カードを贈ります。